平成２８年５月１５日

校長室便り

文責　小川小　福本憲穂

熊本地震に関しまして、被害に遭われた皆様、多数とお聞きしています。

やむを得ず居所を変えられた方もおられ、心よりお見舞い申し上げます。

自宅損壊にあって、他の方々のために動かれていた方も多く、感謝申し上げます。また、小川小学校の再開には、保護者並びに地域の方々の多大なご協力ご支援をいただき、大変有り難うございました。子供達は、事故無く全員戻って参りました。校内に活気がもどり、授業に集中している子供達の様子、笑顔での挨拶に復興の未来が見えます。しばらく通学路が変更になりますが、どうぞよろしくお願い致します。

諸情報については、本校配信「花丸通信」及び、小川小ＨＰにてご確認ください。

＜人間力が問われるときでしょう＞

「一生の内には必ず、大変な困難がある」と父から聞いた記憶があります。

元の自宅以外から通学している児童が、明るく学校生活を送っています。真剣に授業を受けています。宇城市職員のみなさんの献身的な被災対応の姿を何度も目にしました。自衛隊、警察、消防、地震対策研究者、復興支援の表示をつけた県外各所のナンバーをつけた車両、・・・私の生まれ故郷の酒造メーカーにも会いました。

私達学校職員は、やはり子どもたちの目を見ます。被災した家屋、町、道路を見、支援の方々を見、家族を見つめているのが、よくわかります。「お母さんとずっと一緒にいたいけど、（弟、妹がいるから）隣りに（ひっついて）寝なくてもいいです。」と言う子。お家の手伝いをしている人？と問うと、ほとんどの子が挙手。「給食おいしい！」と笑顔の子、苦手な食材も口に入れ、今日も小川小の給食残さいはありませんでした。子どもたちは育っています。また、こんなときだからこその育ちもあります。

本校職員も半数が、自宅外での泊を何日も続け、また失った者もいます。家族や自宅より先に学校再開に取り組んだ姿に、保護者、地域のみなさんの復興活動を重ね、誇りに思っています。共に頑張って参りましょう。

【　６年生の頑張り　】

６年生の表情に変化が見られます。最上級生として、頑張りたいとの気持ちが伝わります。なんと言ってもキャッチフレーズは「史上最高の６年生」でしたからね。登校班を守っての様子に頼もしさに通じるものが見えます。

児童会を中心に、大きく成長していくだろうことを楽しみにしています。

白石君の手をしっかと握って歩く１年生の姿に思わず・・「頑張れ！」

＜５年生学級通信「チャレンジ」より＞

初めての茶つみ　永溝さやか

今日、私は茶つみをしました。初めて茶つみをするので、やり方が分からなかったから、おばあちゃんに教えてもらいました。「色がうすい葉をとって。」と言われたので、色がうすい葉をとりました。最初の方は、まだ全然なれなくて取るペースがおそかったけど、あとからすこしずつはやくなっていきました。と中で休けいをしました。

私は飲み物を運びました。５分くらい休けいしたら、また茶つみを始めました。

たけのこも生えていたのでとりました。ラストスパートをして、やっと終わりました。

今日は、楽しかったです。来年もまた、来たいです。できたお茶を飲むのが楽しみです。

【担任の宮本先生の巻頭言から（抜粋）】

『・・・。子どもたちの話題には、全国各地から多くのボランティアの人たちが熊本にやってきて被災者支援に力を注がれているということがよく出てきます。「支え合い」「励まし合い」の温かさを改めて感じ取っているようです。』『子どもたちは朝、起きたときに家族のみなさんへ「おはようございます」と言えているでしょうか。・・・しっかり届く声が出せること、相手に届く挨拶ができることは、コミュニケーションスキルとしての基本です。ご家庭でも、朝起きの挨拶の習慣づけの取組をぜひお願いします。

「継続は力なり」です。教室でも根負けしないように頑張ります！』